

PEM030-P11

会場:コンベンションホール

時間:5月26日 10:30-13:00

準天頂測位衛星初号機 (QZS-1) 搭載 技術データ取得装置 (TEDA) における初期観測データの評価

Overview of initial observation data of Technical Data Acquisition Equipments on the first Quasi-Zenith Satellite

古幡 智^{1*}, 松本 晴久², 小原 隆博³

Satoshi Furuhata^{1*}, haruhisa matsumoto², Takahiro Obara³

¹ 宇宙航空研究開発機構, ² 宇宙航空研究開発機構, ³ 宇宙航空研究開発機構

¹JAXA, ²JAXA, ³JAXA

宇宙環境を計測する目的で開発された技術データ取得装置 (TEDA) は準天頂測位衛星初号機「みちびき」に搭載され、2010年9月11日にH-IIA ロケット18号機にて種子島宇宙センターより打ち上げられた。TEDAは軽粒子観測装置 (LPT; 中エネルギーアルファ陽子観測装置 (APS-B) と低エネルギー電子観測装置 (ELS-A) にて構成されている)、磁力計センサ (MAM)、帯電電位モニタ (POM) の3種類のセンサにより構成されている。TEDAは打ち上げ以降、準天頂軌道上で衛星の故障や不具合につながる宇宙環境データを収集し続けている。本稿ではTEDAの準天頂軌道上の初期観測データの解析結果概要について述べる。

キーワード: 準天頂測位衛星, 技術データ取得装置

Keywords: QZS, TEDA